

南部ブロック人権ひろば開催される

1月31日（日）13時から南中学校において、南部ブロック「人権ひろば」が開催されました。これは毎年、河原田、内部、楠、塩浜、日永の5地区の人権教育機関が合同で開催しており、今年は日永地区が当番となり、第1部、第2部の二部構成で開催されたものです。

第1部ではブロック内の小・中学生による「人権作文」の発表、第2部では体に重い障害を持ちながら講演・歌手活動を続けている佐野有美さん（プロフィール参照）による「私が障害について語るなら～差別、偏見のない社会に向けて」と題した講演とコンサートが行われました。

第1部 人権作文の発表

内部地区からは、内部東小学校6年生の佐藤愛さんが、学校生活での自分の体験を基に「いじめをなくす勇気の一歩」という題で発表しました。

学校で、ある人が悪口を言われているのを見ても止められず、気まずい思いをした佐藤さん。翌日、悪口を言われていた人に「悪口を止められなくてごめんね」と素直な気持ちで謝ったことがきっかけとなり、その人と仲良くなったとのこと。



内部東小6年 佐藤愛さん

この経験から佐藤さんは、「誰がいじめられていても止めよう」、「誰とでも仲良くしなきゃ」と思い、「小さなことでも先ず自分から行動しよう」、「一人でダメなら友達と一緒に声をかけよう」と自分に誓い、そしていじめをなくす勇気の一歩を踏み出そう、と決意したとのことでした。

また佐藤さんは「人の悪口は言わない。それがいじめにつながるから」とも力強く訴え、会場からは大きな拍手が起こりました。河原田小、楠中、塩浜小、南中の児童・生徒からもそれぞれ自身の体験に基づく熱のこもった発表があり、来賓の講評でも「皆さんの素晴らしい発表を聞いて感銘を受け、大いに勉強させられた」と絶賛の声があがっていました。

第2部 佐野有美^{あみ}さんによる講演とコンサート



佐野有美さんは、体に重い障害を持った人。講演に先立ち、佐野さんの幼いころの生活の様子…手が無い体で小さい時から自分で着替えをしたり、水泳に挑戦する姿等…が映像で紹介され、その後、電動車いすを自分の左足の指で操作しながら「皆さんこんにちは」と大きな明るい声で登場、その瞬間会場は大きな喜びに包まれました。

佐野さんは、「自分は褒められて伸びるタイプ」と言い、何事にも可能性がある限りチャレンジし、そのプロセスを楽しむ、と積極的な生き方を語ってくれました。そんな佐野さんでも過去「笑顔をなくし閉じこもっていた」時もあった由。それでも高校のチアリーダー部の先生の「体にハンディがあっても有美には明るい声がある」との一言に勇気づけられ発奮、「障害を持っていてもできることがある」と、それ以来前向きに生きると決め、チャレンジしているとのこと。

そんな佐野さん、自分の好きな4つの言葉として「ありがとう、笑顔、支え合い、絆」を左足の3本の指でペンを使って色紙に見事に書き、皆さん、感動の大きな拍手で称えました。佐野さんの講演の中でのいくつかの言葉…。

- 1 差別をなくすことはできないかもしれないが、減らすことはできる。心のバリアフリーが大切。心のバリアーを解いて理解し合うこと。
- 2 何事もやってみないとわからない。できる・できないではなく、やる・やらないの問題。とりあえずやってみよう。
- 3 人と比べる必要はない。自分を大切にしよう。
- 4 自分の今までは、諦めないでやってきてよかったことの積み重ねである。
- 5 これからはできること・できないことを見極め、もっと自立していきたい。障害者は支えられる側と思っていたが、大人になってそうではないと知った。

引き続き佐野さんは、デビュー曲「あきらめない」等3曲を熱唱。ユーモアを交えて語り、障害を全く感じさせない佐野さんの1時間半の熱演・熱唱に満員の会場からは感動の大きな拍手が鳴り止みませんでした。

佐野有美さんプロフィール

愛知県豊川市に先天性四肢欠損症で生まれ、あるのは短い左足と3本の足の指のみ。高校在学中、チアリーディング部に所属し、話題となる。2011年6月シングル「歩き続けよう」、アルバム「あきらめないで」でCDデビュー。アルバムは第53回輝く！日本レコード大賞「企画賞」を受賞。現在、多方面からの歌や講演依頼を受け積極的に活動中。25歳。

お知らせ：2月21日（日）13時半～15時、内部地区市民センターで内部地区人権啓発集会（講師：辻いと子氏による講演「輝けいのち」）が開催されます。別途、ご案内中ですが、皆様ぜひご出席ください